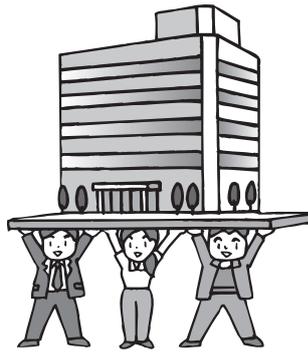


自由民主党

新市庁舎建設に係る市民債の発行

問 平成25年度末で新市庁舎建設整備基金は約120億円を保有する見込みとなっている。残りの事業資金について、新市庁舎に市民が関心を持つように、住民参加型市場公募地方債いわゆる市民債を発行する考えはないのか、見解を伺いたい。



答 市民債の発行には、起債に係る引受手数料や元利金支払手数料及びPR経費等の新たなコストが生じるが、住民の行政参加意識の高揚、住民に対する施策のPR等のメリットがある。今後、各自治体での発行状況等の調査を行うとともに、販売方法、発行年限、利率の設定等について、金融機関から情報収集を行うなど、市庁舎建設事業における市民債の導入に向けて、前向きに検討を進めていきたい。

銅座川の暗渠^{あんきょ}占用への対応

問 銅座川の暗渠は、補修後30年近くが経過し、老朽化が進んでいると考え、早急な取り組みを求めていたが、その後の対応状況について伺いたい。

答 銅座地区は、浸水、慢性的な交通渋滞、住宅の密集による火災の危険性の問題があり、まちづくりを進めるうえで、こうした問題の解消が不可欠と考えている。銅座川暗渠を占有する銅座市場及び思案橋商店街組合並びに周辺の自治会に対しては、今後の総合的なまちづくりについて説明を行い、両組合に対しては、市場や店舗の移転も含めて協議を行った結果、一定の理解を得ている。今後、より具体的な協議を行うため、建物調査費等を予算計上しており、解決に向けた取り組みを積極的に進めていきたい。

やすらぎ伊王島の将来構想

問 やすらぎ伊王島との指定管理期間が満了する平成27年度末を前に、いつまでホテル業を継続させるのか判断が

求められていると思われる。投資額と指定管理者からの納付金とのアンバランスがあまりに大きく、適切な財政負担でないと考えるが、将来構想について伺いたい。

答 平成18年度から23年度までの6年間で、納付金が約1億8,800万円であったのに対し、改修・修繕費用は約2億7,000万円かかっており、今後5年間でさらには約3億円かかる見込みである。今後は、確かな運営能力を持つ民間事業者へ所有権を移管することも視野に入れ、継続もしくは売却の方向性を速やかに決定したいと考えている。



▲やすらぎ伊王島

長崎駅周辺再整備の課題

問 長崎駅周辺の再整備により長崎駅が移動し、そこに新たな商業拠点ができれば、現駅前商店街の衰退は目に見えている。駅と商店街が連携できる地下の利用等を含め、周辺整備地域に隣接する商店街の振興策を示してほしい。

答 新長崎駅は、駅舎東側から駅前商店街方面へは国道を平面で横断する地上レベルでの動線を基本的に考えている。地下でつなぐ考えは、経済性や防犯面、防災性など総合的に判断すると、実現は難しいと考えている。具体的対策としては、県と共同で策定中の長崎駅周辺エリア整備計画を平成24年度中に作り上げ、西坂方面等への回遊ルートを位置づけることとし、駅前商店街等にぎわいにつなげるようにしたい。

新風会

新市立病院建設の工事発注等

問 入札時にPFI事業者から提案された地元業者への発注比率は60%となっているが、現段階で守られているのか。

答 既に完了した設計業務の地元発注は、PFI事業者の提案が達成されている。一方、建設業務、解体業務は、平成27年度ま



▲新市立病院完成予想図